

北 河 内 会 報 自 然 愛 好 会

2019年1月1日 No.104
北河内自然愛好会発行
事務局：大東市野崎 3-7-7
西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

第 398 回例会 「飯盛山のアケボノシュスランを見に行こう」 2018年9月29日の予定 西畑敬一

目的のアケボノシュスランですが、先日の台風 21 号で大きな被害が出てしまい、例年のような花は見られない状態です。とはいえ台風の数日後に現場を見に行ってきた田中光彦さんの話では、道は折れたり倒れたりしている木々が散乱しているが観察には支障がないとのこと。ハイキング道も大したことも無いようですし、秋の植物を観察しながら楽しく山歩きができればと思います。本日、再度確認に行ってきたのですが、アケボノシュスランは健気にも花をつけ咲き始めていました。ハイキング道やランの観察場所には、いまだ折れ枝や倒木がありますのでしっかりと足元でお出かけください。

(と、事前の案内がされていたのですが、台風接近のため中止。)

第 399 回例会 「秋の淀川河川敷」 2018年10月8日(月・祭) 田中光彦

今日は好天に恵まれ過ぎて参加者は少なかった。集合場所にはナガエコミカンソウとニシキソウが花を着けていた。ほどよい人数で集合場所を出発、モノレール沿いの道を淀川方面に向かって進む。少し歩くと車道から離れて騒音ともおさらばする。信号を越えるとすぐにトウダイグサ科のコバノショウジョウソウの所に着く。ほとんどの人が初めて見る帰化種なのでよく観察し、種子もルーペで見て種枕を確認するなどした。それから淀川の堤防に出てそのまますぐに下り、管理道を横切つて草むらに入るとハマウツボ科のアメリカウンランモドキが多くの花を咲かせて出迎えてくれた。こんなにきれいで花付きの良い花がなぜ園芸種として扱われないのかという質問があった。ハマウツボ科というだけではわからなかったようなので、寄生植物なので栽培が困難であることを説明する。その後その近くを歩き回りアメリカウンランモドキの花をもう十分、飽きたというほど眺めて、でもここ以外では兵庫県のある所まで行かなければ見られないと話しその場を後にした。

今日の見どころはすべて見たので後は付録だった。北川さんが、この下流の河畔林が伐採された後どうなったのか知りたいということで、日陰のない河川敷を延々と歩くことになった。観察会の建前テクテクと歩くわけにはいかず、その都度立ち止まっては確認しあう。タチバナモドキが白い花を着けていた。クサネム、ヨメナ、アキノノゲシ、サデクサ、シャクチリソバ、イヌコウジュ、コシロノセンダングサなどが咲いていた。マメアサガオは少なくホシアサガオの花があちこちでたくさん見られた。

12時半を過ぎてやっと河川敷公園の植え込みで日陰を見つけて昼食にありつけた。食後は、暑い日差しの中、これといって見るべきものもない河川敷を歩く意気盛んな人は地元の北川さんだけだったので、もう帰ろうということになり、みんなで守口駅と守口市駅まで歩いた。北川さんが道案内をしてくれました。

◎見られた生き物(記録・北川ちえこ)

◎地下鉄「大日駅」3番出口集合場所：ナガエコミカンソウ(実)、コミカンソウ(実)、ニシキソウ(花、実)、コニシキソウ(花、実)

◎モノレール下歩道：クロガネモチ(街路樹)、シャリンバイ(街路樹、実)、ハナツクバネウツギ(街路樹、花)、アキニレ、タチバナモドキ(八重花、実)、ヨモギ(花)、アレチヌスビトハギ(花、

実)、ドクダミ、ムラサキカタバミ、オオアレチノギク(花)、セイタカアワダチソウ、エノコログサ(実)、ケアリタソウ(実)、ウラジロチチコグサ、クズ、コバノショウジョウソウ(花)(花,果)メマツヨイグサ(花)、アケビ、クソニンジン、オッタチカタバミ(花)、ヒメジョオン(花)、ヤマノイモ(むかご)、ノゲシ(花)、クグガヤツリ(実)、ヒナタイノコズチ(花)、ノブドウ(実)、エノキグサ(実)、コセンダングサ、アキノエノコログサ(実)、メヒシバ(花)、ススキ(花)、ヨウシュヤマゴボウ(実)、マメグンバイナズナ(実)

ヤマトシジミ

◎淀川左岸河川敷: タチバナモドキ(実)、アキニレ、シナサワグルミ、アカメガシワ、エノキ、ナンキンハゼ、センダン(実)、サクラ sp、ネムノキ、オニグルミ、ヤナギ sp、トウネズミモチ(実)、ノイバラ(実)、イヌビワ(花囊)、アメリカウンランモドキ(花)、アレチハナガサ(花)、ヘラオオバコ、コセンダングサ(花)、シマスズメノヒエ(花)、ヤハズソウ(実)、ヨモギ(花)、セイタカアワダチソウ(花)、アレチヌスビトハギ(花,実)、イヌコウジュ(花)、キンエノコロ(実)、コツブキンエノコロ(実)、チガヤ(花)、メリケンカルカヤ(花)、オギ(花)、セイタカヨシ(花)、ヤナギタデ(花)、クサネム(花,実)、マメアサガオ(花)、イヌタデ(花)、メヒシバ(花)、タチスズメノヒエ(花)、ヨメナ(花)、シマスズメノヒエ(花)、ヒロハホウキギク(花)、ギンギシ、セイバンモロコシ(実)、ススキ(花)、ヒメジョオン(花)、ギョウギシバ(花)、アメリカセンダングサ(花)、コゴメイ、ホシアサガオ(花)、メドハギ、カナムグラ(花)、オオオナモミ(実)、メリケンガヤツリ(実)、シロザ(実)、アレチギシギシ、ミチヤナギ、オオクサキビ(花)、ヤノネボンテンカ(花)、ケアリタソウ(実)、アキノエノコログサ(実)、オオブタクサ(実)、シナダレスズメガヤ sp(実)、ツルマンネングサ、オオアレチノギク(花)、アレチウリ(花,実)、オヒシバ(実)、ナヨクサフジ(花)、ナルトサワギク、コシロノセンダングサ(実)、ヒメムカシヨモギ(花)、クズ、アキメヒシバ(実)、カラムシ、アキノノゲシ(花)、ガガイモ、シャクチリソバ(花)、シロバナサクラタデ(花)、ツユクサ(花)、アメリカネナシカズラ、センニンソウ、ヘクソカズラ、イシミカワ(実)、サデクサ(花)、ニガカシュウ(むかご)、ホソアオゲイトウ(花)、ヒメガマ(実)、ナガエツルノゲイトウ(花)、ヤブガラシ、ヨシ(花)、マコモ(花)モズ、ヒヨドリ(声)、ハクセキレイ(声)、ウグイス、キタキチョウ、モンキチョウ、ヤマトシジミ、マダラスズ(声)、ハラオカメコオロギ(声)、フタモンアシナガバチ、ウスバキトンボ?、ツマグロヒョウモン(雌)、スズメガ sp

◎参加者: 栗田泰子、岩井幸恵、北川ちえこ、田中光彦、長島照文、中野潤子、西畑敬一、西村徹也(以上8名)

第400回例会「交野・星のブランコと紅葉」に参加して 2018年11月17日(土) 稲原良三
京阪交野線「私市」駅前に9:30に集合。参加者18名(会員外4名)と府民の森ほしだ園地に向かう。
<コースの概要>

◎磐船溪谷沿いの道

天野川に沿って「星の里いわふね」スポーツ・文化センターから約2.5km、左岸沿いに上流へと細道を歩く。谷沿いだけに、うっそうとした竹林や雑木林の中を川辺の水面に目を捕らわれながら進む。その風景や、一人が歩ける程の小道が街歩きでは味わえないハイキング気分にしてくれる。

歩き始めてすぐに、この地のシンボリックなキリの大木に出会う。しかし、前の台風により何本も倒れて周辺のフェンスや竹林、木々を破壊し、このコースも通行できない状況だった様だ。整備のため切断された大木の断面を見せてコース際に放置されている。50cmを超える切り口や破壊されたフェンスの

状態を見て、谷筋に吹く強風のすごさを感じる。

府民の森の駐車場を過ぎると森林鉄道風の木道陸橋の上を歩く。少し傾斜がついて登りを感じるが木道だけに足下が安心できる。切り立った崖沿いに設置された木道陸橋は谷筋の景観を楽しむことができ、右側に崖、左側に谷を見ながら進む。右手に生えた植物の観察は、しゃがまなくて良い分、見やすく探しやすい。また、左手の谷に生えた植物は一段と低い地面からの為、樹木の側面、上部から見下ろす眺めとなり、足下から見上げる眺めとは違うので観察には面白い。ピトンの小屋で溪谷沿いは終わる。

ピトンとは登山道具、岩の割れ目に打ち込んで使用するハーケン(独)のフランス語由来の名称だそう。ピトンの小屋は府民の森の管理棟で来場者が楽しめ、休憩できる情報、自販機や前面広場には地上高 16.5m のクライミングウォールが有る。カラフルな人工ウォールに目を奪われがちですが後ろ側にある天然の大磐壁もなかなか見ることができないスケールだった。

◎やまびこ広場までの山登りの道

登り道が少し急になるが道幅の広い府民の森の管理道を歩き始めて、やまびこ広場まで約 1.3km の道のりとなる。途中、丸太の土止めの階段小道の急登、吊り橋「星のブランコ」、管理道を経る。階段の小道は管理道より近道だが結構きつい。思わず、足下ばかり目が行き観察どころでは無い。が、イノシシのラッセル跡、足跡とヌタ場が目に入る。休憩したいが狭い小道のため登り続ける事になる。やっとの事で登り切ったところが「星のブランコ」になる。一部紅葉した谷風景を背景にこの吊り橋は絵になる。紅葉にはまだ早い様子、紅葉する樹木が少ないのかも知れない。

ということでイロハカエデの種子を吊り橋から落として見た。種を中心に2枚のプロペラを回転しながら落ちていった。小さいのですぐに見失うことになるが、落ち行く種に発芽の夢を託した。吊り橋の中央は通行者が十数名で、結構揺れてスリルも味わえた。

◎広場下北ゲートから 星田妙見川沿いの道 (帰路)

やまびこ広場で昼食後、来た道を 100m 程戻ると左手に土手に登る小道があり、そこを登るとバイク止めの鉄のゲートが現れる。ここからが妙見川へ抜ける道で星田妙見宮のふもと、妙見橋まで 1.6km の道のり。星のブランコとは尾根を隔てて雰囲気ガラリと変わり、まさに山の小道を歩く自然の下り道。沢を渡り、左尾根を巻くように歩くと妙見川上流に来る。そこから左岸沿いに下ると谷下向こうに社が現れ、さらに進むと陶芸家の釜場が有り、妙見橋に着いた。うっそうとした社寺林を過ぎると住宅地を下り、天の川の私市橋を渡り右岸を植物園入口へ、川辺の植物等観察しながら遡り、私市駅へと向かう。説明・解説役の西畑さん、田中さん、皆さん、ありがとうございました。

◎<観察植物>西畑さんの記憶から連絡戴いた名称

シロシキブ、ヤマノイモ、ヒヨドリジョウゴ、シロバナウンゼンツツジ、コバノミツバツツジ、モチツツジ、ヤマモミジ、アマヅル、イロハカエデ、オオモミジ、ゴンズイ、イヌザンショウ、イチヨウ、ニシキギ、ミヤマガマズミ、ササユリ、ニガイチゴ、フユイチゴ、ヤマニガナ、ソヨゴ、ササクサ、コナラ、アベマキ、エゴノキ、アオキ、ヤマハゼ、ウリカエデ、ノガリヤス、コウヤボウキ、フトヒルムシロ、ニシキギ、ドウダンツツジ、ショウガ?、リョウブ、ヌルデ、ウラジロ、コシダ、シシガシラ、ベニシダ、クマワラビ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、カナメモチ、シャシャンボ、ナナメノキ、ニガクリタケ、ハダカホオズキ、イヌホオズキ、アメリカイヌホオズキ、アオミズ、ヒチヘンゲ、チロリアンランプ、ウツギ、シバグリ、ネムノキ、センダン、ヤマザクラ、ヒヨドリバナ、マンリョウ、キチジョウソウ、コンテリクラマゴケ、アマクサシダ、フユノハナワラビ、キツネノマゴ、イヌビワ、ヒメコウゾ、シュウカイドウ、キリ、エノキ、ムクノキ、ヤブツバキ、チャノキ、アカマツ、ネジキ、クワ、イイギリ、タイワンコマツナギ、アカメガシワ、ケヤキ、カニクサ、ノキシノブ、イワヒメワラビ、マルバアメリカアサガオ、ビャクシン、コセンダングサ、ホソバヒメミソハギ、ムラサキエノコログサ、

アメリカタカサブロウ、コムラサキシキブ、ツクバネウツギ、コチヂミザサ
ウグイスのささ鳴き、シジュウカラの鳴き声
モンシロチョウ、キチョウ、イノシシの足跡やヌタ場も確認出来た。

◎参加者：安藤香子、稲原良三、岩井幸恵、大津由紀子、影千恵子、鈴木永子、田中光彦、長島照文、
中野潤子、中町茶子、西川節子、西畑敬一、発ひとみ、古井秀子、大塚るいこ、西村徹也、宇気京子、
目黒栄子（以上18名）

《会員交流コーナー》*****

§§<教えて>8月19日に大野川緑陰道から矢倉海岸（矢倉緑地）の調査へ行ってきました。矢倉海岸は猛暑が続いたせいでしょうか、期待した海浜植物はハマヒルガオの葉しか見当たりませんでした。むしろ、矢倉海岸までの淀川右岸に、流れてきて発芽したと思われる、色々な植物が面白かったです。以前に見当たらなかった、ハマゴウ、シナガワハギ、トウコマツナギ？の花が咲いていました。ヤノネボンテンカもあちこちに咲くのを初めて見ました。

今回、分からない草が2種ありました。知っておられる方がいましたら教えて下さい。

○トウコマツナギ？コマツナギの仲間ですが、全体が立ち、花柄が大変長い。葉が少なく、茎の色が黒っぽい。

○不明種：矢倉緑地人工磯遊歩道に、コニシキソウの仲間と思わず少し持ち帰りましたが違っていました。上から見ればコニシキソウのような広がり方、ツメクサの仲間（ナデシコ科）のように見えるが、葉が平べったい。よろしく願い致します。（8/28 北川ちえこ）

§§<回答>不明種はスベリヒユのように思えます。一度ご確認ください。写真はうちの近所のスベリヒユの果実（蓋果）。蓋がとれたら種子がこぼれます。（8/29・木村雅行）スベリヒユは子供の時、食べさせられた記憶があります。美味しかったように思い出されます。（8/30・平 研）木村さん、どうもありがとうございます。木村さんの写真と見比べました。スベリヒユだと思います。こんな身近な草なのに、今さらですが実を初めて知りました。また見る機会もあると思いますので、しっかり見てみたいと思います。みなさま、ありがとうございました。（8/30・北川）

§§<私市植物園の台風被害>今日、市大生の野鳥観察指導の下見に、植物園に行ってきました。園内はいたるところ倒木で、通行不能、野鳥観察して歩けるような状態ではありませんでした（添付）。いま、閉園になっています。野鳥観察は取り止めにしてスライドを映写することにしました。（9/7・平）

§§<天野川で>家内のデイサービスの間、天野川を歩きました。

1、コサギがドジョウ掬いを見せてくれました（添付）。同じところで採餌するダイサギ、アオサギは足が長く、深いところまで立ち入って広く餌をとることができるが、コサギは悲しいかな足が短く、餌をとれる範囲が狭い。そこで考え出したのが、草陰やごみの下に隠れている獲物を肢でつついて追い出して捕る、アオサギやダイサギの採餌の盲点を突いた素晴らしい知恵の働き、しばらく見とれました。

2、途中でお会いした徳永さんに居場所を教えてもらって例のオシドリを写せました。異郷でカルガモの仲間に入りこんで3年、しっかりと生きていますね。すばらしい生きざまですね。（9/17・平）

§§<星田田んぼ>昨日、星田田んぼへ行ってみました。これが目当てのサクラタデが今年も咲いていました（添付）。この花が咲いて、田んぼの実り（添付）が収穫される頃になるとノビタキがやってきます。でも以前、畔を歩くと、ワンサと飛び出していたイナゴやコオロギ（キビタキが餌としていた）が見えません。近年キビタキの飛来が少なくなった理由の一つでしょうか。（9/25・平）

§§<天野川の鳥>家内のデイサービスの間、鳥を探して天野川を歩きました。出会った徳永さんに教えてもらった例のオシドリ、繁殖羽へ衣替えが進んでいました（添付）。でもメスから離れて3年、この

衣替えが役にたつことを祈らざるを得ません。下流の掲示板前の水際に黒い鳥、何かは老眼にはしかと私には分からず、写して伸ばしたらゴイサギのようです。ゴイサギとは久しぶり、鳥が少なくなった天野川が明るくなりました。(10/1・平)

§§<食べられるカマキリの♂>星田園地での出会い。カマキリが抱いている半分食べた獲物をよくよく見たら(添付)、食べられているのはカマキリでした(共食い)。交尾したオスがメスに捕まって食べられているのです。カマキリでは、交尾後に♂が♀に食べられることはよくあることです。これを♂の哀れな運命と見るか?でも、こんな見方も「食べられたオスのエネルギーは自分の遺伝子が伝わった卵、孵った子供の体に受け継がれていくことを思えば、交尾後野垂れ死にするよりも♀に食べられたほうが有意義」。エネルギーの移転、エネルギー不滅の法則など思うと、なんと合理的なカマキリの生き様、「命とは何か、生きるということはどういうことなのか」考えさせられます。(10/3・平)

§§<交野山でタカ渡りを見ました>家内のデイサービスの時間を利用して、何年も登っていない交野山へ。センターまでバイクを飛ばして、センターから挑戦してみました。若い時はここを駆け上がったのに、杖に頼っても足が上がりず、休み休みしながらやっと岩までたどり着きました。常連の方々の中に入れてもらっ腰を下ろして見上げる空、教えてもらってやっと老眼で見えた雲間の黒い点のタカ、黒い点でしかなくてもそれがタカであれば嬉しい。それは、タカ独特のタカ渡りするタカの生き様でしょう。久しぶりに高い高い空で円を舞うタカを見せてもらって、若々しい気分になってバイクを飛ばして帰りました。思い出の1日になるでしょう。(10/9・平)

§§<見てやってください~ハヤブサ>青空を飛ぶハヤブサを彫ってみました。勇壮で、爽快な感じが出ませんでした。(11/15・平)

§§<くろんど池>家内のデイサービスの時間を、気晴らしに、例のくろんどドライブをして池を眺めていたら、オオバンだけが5羽泳いでいました。翼や背中が灰色でした(添付)。池に映った紅葉をゆらしていました。(11/16・平)

§§<見てやってください~ハヤブサ 2>先日彫ったハヤブサがあまり元気がなかったので、今度は河村さんのメール配信のハヤブサをお借りして彫りました。(11/27・平)

§§<教えて>今年に入り多くの大阪市内の小学校の生き物調査の授業を手伝っていますが、見たことも無いような植物に出会います。困った時の愛好会のみなさまのおかげで、空白の種名が埋まっています。北川にも大変勉強になり、感謝しています。

さて今回も同定のお願いです。分かりましたら教えて下さい。よろしくお願い致します。

1・2018年10月18日 瓜破西小学校の近くで：園芸種? 20181018.jpg

2・2018年11月12日 中央区中央小学校：キク科 201811121.jpg、201811122.jpg

3・2018年11月13日 平野区平野南小学校：キク科 20181113hirano.jpg (12/2・北川)

§§<回答>10月18日のものは、キツネノマゴ科ルイラソウ属のヤナギバルイラソウです。帰化植物で、あちこちの住宅地の路傍で見られます。栽培していたものの逸出と思います。添付写真のような花や実がつかます。他は見たことのないものばかりです。一度現物を見たいものです。(12/3・田中光彦)

3番目の平野南小学校の写真は黄色の舌状花はありませんがダールベルクデージー(カラクサシュンギク)だと思います。(12/3 木村)

§§<くろんど池>昨日、家内のデイサービスの時間を利用してドライブ、くろんど池に立ち寄りました。オオバンの群れとヨシガモが仲良く採餌していました。好みの藻がいっぱい生えていて、いい越冬池のようですね。(12/18・平)

§§<天野川を歩きました>家内のデイサービスが週3回午前中と増加したので、外に出られる時間が増えたので、今日天野川にあのオシドリを訪ねました。植物園横で川面に倒れた竹に止まって寝姿で目を開けたり閉じたりしていて、健在でした(添付)。交野の人気者になったこのオシドリ、故郷には帰れ

ず、やがてここが終焉の地になるのでしょうか。悲しい予感がよぎりました。(12/19・平)

§§<死期が近づいて～閻魔大王>極楽の仏さんは数多く彫ったけど、極楽には行けそうもなく、もし行けたとしても、極楽は事件もなく単調で退屈しそうで、性に合わないだろうから、むしろ地獄に行って、舌を抜かれる前に閻魔さんと議論でもしてみたいなど、怖い顔の閻魔大王を彫ったつもりが、愛嬌が滲んでしまいました(添付)。丁度来ていた娘に「俺の棺桶にこれを入れておけよ」と言っておきました。死期が近づくとこんなことも思います。嘲笑してください。(12/26・平)

§§<天野川を歩きました>今日の午前中、家内の今年最後のデイサービス、私の最後の自由時間、天野川にオシドリを訪ねましたが、どこにも見当たりませんでした。何処かで昼寝でもしていてくれたらいいなと思いながら、日出橋から逢合橋まで往復歩きました。途中で写したアオサギ(添付)を伸ばしてみたら、嘴の根元が微かにピンク色が滲みかけているように見えるので、これからが冬本番というときに婚姻色が出始めているのかと気になり、添付しました。いかがでしょうか。(12/28・平)

§§<庭のヤマガラ>我が家の庭のミニサンクチュアリの餌台には今、キジバト1、スズメ5~6、ヤマガラの番いが訪れているだけです。今年は種類も数も少なく、いつもは邪魔ものヒヨドリが全然来ないのも寂しいです。添付は餌台のヒマワリの種を持ち出して食べています。野鳥が減ってきた?野鳥の世界に何が起きているのでしょうか?近年の季節の異変が影響しているのでしょうか。野鳥ファンにとってはタダゴトではありません。(12/30・平)

§§<おめでとうございます>「朝寝、朝酒、朝湯」、一度はしてみたかった男の夢、今日正月2日、数え93歳にしてやっと実現しました。そしたらお湯上がりにも一杯やっしまいました。庄助さんを越えしまったようで「庄助さんごめんなさい」。いいお正月です。(1/2・平)

◎異動(敬称略)退会:岡本美恵子 9/21 交野市、奥野 勇 10/31 枚方市(自然退会)

◎編集後記:この1年、さまざまな災害が起り、地球温暖化や環境問題がいよいよ重要になってくるように思います。それなのに、日本の立場は?と首を傾げざるを得ません。皆さんはいかがでしょう。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。(太田)

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長:西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して:稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して:太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735

目次

第398回例会「飯盛山のアケボノシュスランを見に行こう」

(台風接近で中止) -----1

第399回例会「秋の淀川河川敷」田中光彦-----1

第400回例会「交野・星のブランコと紅葉」に参加して

稲原良三-----2

会員交流コーナー-----4 異動、編集後記-----6

カラーグラビア版-----別刷 例会案内-----別刷

岡田三千代さん画「ソシンロウバイ」

(カラーグラビア版でご覧ください)

